

1. 授業の概要(ねらい)

本講義は司書教諭・司書資格科目である。
知識基盤社会では、子どもたちに、自ら学び、自ら考える能力を力を育成することが求められている。それ故、学校図書館の役割がますます重視されており、その活用は学校教育の重要課題となっている。

子どもの学習を支えるためのメディアセンターである図書館一般の役割を踏まえながら、教育課程の編成・実施と学校図書館、図書館メディア活用能力の育成、学習活動における学校図書館と教師の役割、これからの学校図書館と司書教諭の役割等について、学校図書館を活用した学習指導の実践例の分析・考察等を通して理解する。

2. 授業の到達目標

- (1) 学習指導における学校図書館の役割を理解する。
- (2) 情報リテラシー育成における学校図書館の役割を理解する。
- (3) 学習指導における学校司書・司書教諭の役割を理解する。
- (4) 情報カードの活用方法を理解し、それを活用してレポートを作成することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- 平常点 :50%(授業期間中に提出する小課題、読書ノートへの取り組みも含む)
レポート:20%(『入門 情報リテラシーを育てる授業づくり』、人物の評伝レポート)
試験 :30%

4. 教科書・参考文献

教科書

堀川照代・塩谷京子 『改訂新版 学習指導と学校図書館』2016年 放送大学教育振興会

全国SLA 『読書生活デザインノート』2013年 全国学校図書館協議会

鎌田和宏 『入門 情報リテラシーを育てる授業づくり』2016年(レポート課題用テキスト。紙版、電子書籍版のいずれでも可) 少年写真新聞社

参考文献

全国学校図書館協議会 『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』2012年 全国学校図書館協議会

5. 準備学修の内容

各回の講義内容に該当するテキスト箇所を読み、図解を作成した上で出席して欲しい。毎回授業の初めに受講者各自が作成したテキスト各章を説明する図解を元にグループワークを行うので、テキストを読むことは当然のこととして疑問点を明確にして出席して欲しい。

6. その他履修上の注意事項

- ・司書資格・司書教諭資格取得のための授業である。
- ・授業では、様々な活動や作品づくりを行う。主体的に参加し、提出物は確実に作成・提出してほしい。提出物の締め切りは厳守のこと。
- ・本講義の受講者は、読書ノートの実践に取り組んでもらう。初回に授業で説明するので、半期を通じて実践してほしい。(単位認定要件の一つである)。
- ・第1回の授業は授業の概要を説明し、単位習得のための条件等を説明する。必ず出席のこと。万が一欠席した場合は、2回目の講義以前に研究室を訪問し、説明を聞いた上で履修するかどうかを決定してほしい。説明を聞かないうちに履修登録はしないこと。1回目の授業と最終回の授業は、授業構成上大きな意味を持つ(教職を志す者は授業開きと最終授業の重要性をよく認識してほしい)。初回・最終回の欠席はないように。この2回に欠席した場合は単位を認定しないことがあるので注意してほしい。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 「情報リテラシー」とは何か
- 【第3回】 教育課程と学校図書館(1)学習指導要領に位置付けられた学校図書館
- 【第4回】 教育課程と学校図書館(2)実際の教育課程と学校図書館・特別支援教育と学校図書館
- 【第5回】 学校図書館と学校司書・司書教諭
- 【第6回】 メディアと学校図書館
- 【第7回】 学校図書館とメディア活用能力の育成
- 【第8回】 メディア活用能力育成の計画と展開
- 【第9回】 授業と学校図書館メディアの活用(1)課題の設定と探索計画
- 【第10回】 授業と学校図書館メディアの活用(2)資料の収集と整理
- 【第11回】 授業と学校図書館メディアの活用(3)表現
- 【第12回】 学校図書館メディアを活用した授業の実践例1 国語科の事例
- 【第13回】 学校図書館メディアを活用した授業の実践例2 他教科の事例
- 【第14回】 学校図書館メディアを活用した授業の実践例3 総合的な学習の時間の事例
- 【第15回】 展望 情報リテラシーを育てる学校図書館